



治山事業について説明する
治山技術専門官



製品生産事業について説明する販売係長

東京農業大学より二名、信州大学より一名で実施し、経営、土木、販売、治山等それぞれの業務を体験してもらいました。
体験を通して研修生からは、「森林管理署での具体的な業務は知らなかったが、国有林の管理、森林林業に関する指導、国土保全、森林教育等幅広い分野で業務を展開していることが解った」また「シカ柵、ワナの設置などシカ被害の現

状と対策などを教わり勉強になった」との感想が聞かれました。

研修最終日の挨拶では「今までの体験の中で一番の経験ができました」とのうれしい言葉も聞かれ、この受け入れが将来に役立っていただければ幸いです。

登山者に安全な遊歩道を整備

【飛騨署】九月十日(土)、名古屋造林素材生産事業協会飛騨支部は、平成二十三年度ボランティア事業の一貫として、飛騨市河合町天生(あもう)国有林において、天生湿原遊歩道周辺危険木処理作業を行いました。

ボランティア活動を行った天生国有林は、岐阜県北部に位置し、世界文化遺産・白川郷で有名な大野郡白川村と飛騨市河合町の境にあります。平成十年に天生県立自然公園に指定され、春から初秋まで花が絶えることのない高層湿原やブナの原生林が広がり、植物観察やその頂にある初糠山(もみぬかやま)登山などで年間八千六百人もの登山者が入山しています。今後入山者は増加傾向にあり、遊歩道周辺には老齢などによる枯木が見られ、風雨等の後には倒木、落枝などが見受けられるようになってきていました。

同協会はこうした中、飛騨エリアの森林整備、林産業を行う協会として、枯損



危険木処理作業を行うボランティアの皆さん



木の処理をボランティアで行うよう計画し、今回で二回目となりました。
当日は爽やかな秋晴れの中、会員や職員で心地よい汗をかきながら、遊歩道周辺の危険な枯木の処理作業を行いました。

会員の皆さんは、日頃鍛えた巧みなチェーンソーによる伐倒技術で枯木を処理し、怪我無く安全な登山道整備を終えることができました。

晩秋をむかえる天生は、ブナなどの紅葉目当ての登山者を迎える準備が整いました。

十年目を迎えた段戸国有林

「漁民の森林づくり活動」

【愛知所】九月二十八日、愛知所管内の段戸国有林においてNPO法人や蒲郡市、愛知県と協働し「段戸国有林「漁民の森林(もり)づくり活動」を実施しました。

本活動は、豊かな水産資源をはぐくむためには上流の森林整備が大切だと、平成十四年に三河湾の漁業関係者が三河湾につながる豊川の源流にある、ふれあいの森内に広葉樹を植林したことが始まりで、今回で十回目となります。

翌年からは愛知県立三谷水産高等学校



平成14年の植林作業の様子



成長した森で除伐作業
を行う漁業関係者

の生徒が加わるなど活動の輪を広げ、現在ではふれあいの森の他に広葉樹転換林の除伐作業も行っています。

秋晴れとなった当日、蒲郡市漁協青年部連絡協議会メンバー十六名及び愛知県立三谷水産高等学校の一年生三十九名が参加し、漁業関係者はふれあいの森を、高校生は広葉樹転換林の除伐に汗を流しました。

植えたときは数十センチだった苗木も、現在では自分たちの背丈を遥かに超え、漁業関係者から「歳月の流れを感じるね。」といった声が寄せられました。

また、お昼には十周年を記念して漁業関係者が「海の幸振る舞い」としてニギス鍋を参加者に振る舞いました。

その後高校生は国際森林年イベントとして、裏谷の天然林を歩き、普段学んでいる海とは違う森の働きや天然林の雰囲気堪能しました。



裏谷天然林を歩く高校生たち



参加者全員で記念撮影

閉会式で、三谷漁協組合長小林氏が「森林を整備したからといっても、すぐに海が豊かになるものではない。今後も継続して活動していきたい。」と感想があり、今後の活動に意欲を見せられました。

今後各団体との交流・連携を大切にしながら、ともに「水産資源をはぐくむ森づくり」を続けていきたいと思います。

裏谷原生林自然観察案内終わる

「愛知所」当所では森林環境教育の一環

として、毎年NPO法人・団体・教育機関等と連携して森林教室をはじめとするイベントに取り組んでいます。

中でも、段戸国有林で行う自然観察案内は、豊川市内の全小学校五年生を対象としてNPO法人「穂の国森づくりの会」や教育委員会と協働し、実施しています。

今年度も五月中旬から九月中旬までの四ヶ月間、ほぼ毎週児童を森に案内し、二十五校、約千七百五十名の児童と一緒に森を歩き森の働きを学びました。

案内開始から十一年目が経過し、野外活動の一部として定着したこの案内には、兄弟等が以前に参加したことがあり、「話を聞いて、自然観察をとっても楽しみにしてきましたよ。」と話してくれる児童が何人もいました。

各児童にとっては一度しか体験できない野外活動での自然観察なので、森の中の楽しい思い出をいっぱい持ち帰ってもらえるよう、案内人がみんなで工夫をこらし、楽しくわかりやすい案内になるよう努めました。

また、野外活動での事故を防ぐため、案内の開始前に参加する全ての学校の教職員と案内コースを歩いて危険予知を行うなど、安全管理にもさらに力を入れました。

今後、連携団体と反省会を行うなどして、来年度以降の案内がより良くなるように努めていきたいと考えています。



森の働きなどを分かりやすく説明



自然観察に訪れた児童たち

木曾駒ヶ岳の植生復元作業の実施について

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」

九月十五日は好天に恵まれ、富士山も遠く望める絶好の快晴の中、植生復元対策検討会メンバーをはじめボランティア、当センター職員・局署の職員を含め総勢三十六名で本事業を実施しました。

中央アルプス木曾駒ヶ岳周辺では、過去の登山者の入り込み増加が誘因とも考えられる踏み荒らし等によって、高山植物の荒廃が進行しており、加えて大量の降雨、降雪による砂礫の移動や強風が植生の荒廃に拍車をかけています。

このような植生の衰退を食い止めるため、飛砂や砂礫の流入・流出を防止・登山者に「踏み入ってはいけない」という視覚的效果も期待しつつ植生マットを敷設する植生復元作業を啓発もかねて実施しています。

今年度のマット敷設面積は新規敷設と補修を合わせて165平方メートルで、天狗荘北西周辺と駒ヶ岳八合目（伊那前岳方面）付近で行いました。

日本最高所駅の千畳敷ロープウェイ駅で敷設用マットとピンなどの資材をみんなで分担して背負い、急な八丁坂を汗だくになりながら登り二手に分かれて敷設しました。

本作業計画は十七年度を皮切りにこれまで一、二四五平方メートルが実行されてき

ました。

高山帯での事業であり厳しい生育環境



重い資材等を背負う参加者



植生マットを敷設

下であることから結果が出るまでに時間がかかり、現地の一進一退の状況に一喜一憂しています。植生復元委託調査報告によると現在までの取り組みにより砂礫の流入・流出が止まることによる効果と思われる兆しも僅かずつではあります。が確実に出てきていると報告されています。



植生復元作業に関わった皆さん

管内囲碁大会を開催

【OB】第四十三回管内囲碁大会が十月十五日森林管理局別館で開催されました。大会は職員一名、OB十七名が参加し、酒井国有林野管理課長の挨拶の後、



熱戦を繰り広げる参加者

盤上に熱戦を繰り広げました。成績は次のとおりです。

Aブロック

- 優勝 清水 長久 四段 (OB)
- 準優勝 小林 秀夫 四段 (〃)
- 第三位 美斉津 桂 七段 (〃)

Bブロック

- 優勝 酒井 省三 一級 (国管課)
- 準優勝 黒沢 嘉武 二段 (OB)
- 第三位 原 信夫 二段 (〃)

人のうごき

林野庁人事(抄)

十月一日付

▽林野庁国有林野部付(局次長(名古屋事務所長))
竹井 章

▽中部森林管理局次長(名古屋事務所長)(林野庁林政部林政課管理官兼林政部林政課課長補佐(人事総括))
田中 謙司

▽中部森林管理局出向(総務部付へ)
(局総務部総務課長)
洞 和雄

▽中部森林管理局総務部総務課長(局総務部職員厚生課長)
宮口 裕之

▽中部森林管理局局総務部職員厚生課長(東信署次長)
上條 浩明

▽中部森林管理局出向(森林整備部付へ)
(局森林整備部森林整備課長)
飯村 清夫

▽中部森林管理局森林整備部森林整備課長(局森林整備部販売課長)
小林 辰男

▽中部森林管理局森林整備部販売課長(局森林整備部企画官)
傳村 充善

中部森林管理局人事

十月一日付

▽林野庁出向(局森林整備部企画官へ)
(局計画部付)
駒瀬 勉

▽林野庁出向(東信森林管理署次長へ)
(局企画調整室室長補佐)
大平 重利

▽企画調整室室長補佐(木曾署南木曾支署総務課長)
宮澤 昌弘

▽総務部総務課付(総務部総務課研修主任官)
花井 永二郎

▽総務部総務課研修主任官(計画部国有林野管理課鑑定官)
郷原 辰実

▽木曾森林管理署総務課長(総務部職員厚生課給与係長)
寺沢 正樹

▽木曾森林管理署南木曾支署総務課長(木曾署総務課長)
青木 求

▽総務部職員厚生課給与係長(総務部職員厚生課安全衛生係長)
遠山 京一

▽総務部職員厚生課安全衛生係長(計画部国有林野管理課企画係長)
長屋 憲明

▽計画部国有林野管理課企画係長(計画部国有林野管理課付)
白木 淑子

▽災害派遣東北森林管理局宮城北部森林管理署駐在(木曾署南木曾支署治山課治山第一係長)
宮下 崇

▽中信森林管理署治山課姫川治山事業所(中信署鹿島森林事務所)
山崎 聡大



シリーズ 現場最前線

笑顔の絶えない明るい雰囲気 東濃森林管理署

川上・神坂森林事務所班

川上神坂班は、川上森林事務所二名・神坂森林事務所二名の計四名で合同班として事業を行っています。班では、川上森林事務所が管轄する川上国有林(約一、二〇〇ha)と今年度流域整理により新たに加わった賤国国有林(約二〇〇ha)及び、神坂森林事務所が管轄する湯舟沢国有林(約二、五〇〇ha)を担当しています。

川上国有林には奥三界山や三界山、湯舟沢国有林には三百六十度の大パノラマが楽しめる富士見台や森の巨人たち百選



川上・神坂合同班の皆さん

の「神坂大松」、恵那山登山口等があり、国有林内に観光客の車両や登山者等の通行が多いため、林道走行の際には防衛運転に徹するとともに、危険箇所は無いかと常に目を光らせています。

作業内容は各種調査業務や森林保全管理、林道維持修繕、分収育林の明認作業、除伐2類や枝打ち等多岐に亘っています。

班長を中心に二つの森林事務所の業務を上手く調整し、日々のミーティングにおいては業務内容や作業地の条件等により、安全で効率的な作業方法等について皆で打合せ確認しています。

今後も、笑顔の絶えない明るい雰囲気
で豊かな森づくりに取り組み、平成十年から続く無災害を継続していきたいと思っています。

行事・協議会の予定

◎国有林野等所在市町村長有志連絡協議会

11月7日 松本市

◎署長等会議

11月11日 長野市

◎名古屋シティ・フォレスト事業

11月12日 愛知所管内

◎国際森林年記念講演会

11月22日 長野市

◎講演会「列状間伐」

11月29日 松本市



小里城山城登り口

岐阜県瑞浪市の南部に位置する稲津町内には中世からの近世初頭にかけて当地を治めた領主「小里氏」の居城とされる城跡が三ヶ所あり、小里古城跡、小里新城跡、小里城山城跡と呼ばれています。

戦国時代の山城・小里城跡

ふう けい き こう
風景紀行
小里城跡
 78
 東濃森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

この山城の築城時期については明らかでないようですが、小里光忠が当地を所領した天文元年（一五三二年）頃、あるいは織田信長と武田氏との攻防の最中であつた天正二年（一五七四年）と考えられ、元和九年（一六二三年）に幕府からの命により小里氏が断家となつたことより廃城となつたとのことです。

曲輪は、城山の北側山麓（御殿場跡）



登山道（V字に切れ込んでいる）

その中でも最も規模が大きく、また平坦面（曲輪）なども良好な状態で残っている小里城山城の本丸跡（岐阜県指定史跡）は小里国有林（二三二杉）内にあり、この場所はレクリエーションの森（小里市民公園ほか〇・四一杉）に指定されています。

と山頂（本丸跡）に確認されており、「御殿場跡」は大手門と呼ばれる門跡（石垣）が残っています。また「本丸跡」は、石垣のほか天守台あるいは升形と呼ばれる不等辺六角形を呈する石積みがあります。

辺りには築城用の石切跡のついた石や割石も散在しています。

また、この天守台は、織田信長が安土城天守築城前に自ら指示して築かせたという説もあり、六角形の石垣から想像して、もし完成していれば安土城のような風変わりな天守ができていたかもしれません。

最近の歴史ブームにより、小里城跡にも多くの観光客が訪れています。

なお、山城から谷を挟んだ西側には、コウヤマキの分布下限近くに位置する林分約一九センチの小里コウヤマキ植物群落保護林として指定されている場所もあります。

◆アクセス

（所在地）岐阜県瑞浪市稲津町小里

○車をご利用の場合

中央自動車道瑞浪IC下車県道二〇号線を南へ約三〇分。

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央本線瑞浪駅から東鉄バス明智線「明智駅」行きで「山の田」バス停で下車。小里城址のある山の麓までは約二キロメートル。



天守台から町並みの一望



小里城山天守台の石垣（不等辺六角形を呈している）